

令和7年度学校評価の結果と改善策について

佐世保特別支援学校

1 部・分掌部評価の結果について

【改善策を検討する視点】

- ・部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目。

(1) 各部における評価の結果について

- ・評価の数値が「2」以下はなく、全て3～4の評価だった。

(2) 各分掌部における評価の結果について

- ・評価の数値が「2」以下はなく、全て3～4の評価だった。

2 教職員、保護者、児童生徒アンケートの結果について

【改善策を検討する視点】

- ・平均値が中央値である 2.5 ポイントを下回った項目。
- ・昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目。
- ・「達成度」が 75%を下回った項目。
- ・自由記述に意見が挙がった項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断された項目。

「達成度」とは、4段階評価において4又は3と評価した人の全体に対する割合のこと。達成度 75%は、全体の 75%の人(4人中3人)が「良い」という評価である4又は3と評価したことを意味する。

(1) 教職員アンケートの結果について

- ・回答者数は 158/173で、回答率91.3%(昨年度 83.1%)だった。
- ・平均値が 2.5 ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より 0.5 ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・達成度が 75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述では、業務改善、教室(施設)不足・老朽化・安全面の不安、来校者(保護者を含む)への挨拶の徹底に関する意見が挙がった。それ以外の意見については、全校的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断はしないが、個別に対応が必要な意見があり、それらについては、管理職や該当部で対応していく。

(2) 児童生徒アンケートの結果について

- ・回答者数は 191/221で、回答率は 86.4%(昨年度 89.1%)だった。
- ・平均値が 2.5 ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より 0.5 ポイント下回った項目はなかった。
- ・達成度が 75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述の内容により、全校的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断はしないが、個別に対応が必要な意見があり、それらについては、管理職や該当部で対応していく。

(3) 保護者アンケートの結果について

- ・回答者数数は 204/264 で、回答率は 77.2% (昨年度 67.2%) だった。
- ・平均値が 2.5 ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より 0.5 ポイント下回った項目はなかった。
- ・達成度が 75% を下回った項目はなかった。
- ・自由記述では、教室(施設)不足・老朽化・安全面の不安、必要な情報が提供されない(遅い、メールが分かりにくい)、挨拶がない・言動が不適切という意見が挙がった。それ以外の意見については、全校的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断はしないが、個別に対応が必要な意見があり、それらについては、管理職や該当部で対応していく。

3 改善策について

部・分掌部評価、教職員、保護者、児童生徒アンケートの結果から、以下の点について改善策を講じることとする。

(1) 働き方改革について

- ・引き続き、安全衛生委員会を中心に、職員アンケート等を実施し改善の進捗状況を確認しながら、進めていく。また、各部・分掌部においても、業務の見直しを引き続き進める。特に、持ち帰り業務の内容を確認し、可能な限り削減されるような工夫を検討する。(持ち帰り業務については、情報漏洩の観点からも削減の方向へ進めることが必要。)
- ・組織として業務改善を進めつつ、各個人の働き方を見直しワークライフバランスの推進を働き掛けていく。
- ・学校の開錠時刻と施錠時刻の見直しを継続し、教職員が学校に滞在している時間を短縮することで、超過勤務の削減を図る。(県が定める目標値:令和7年度 月45時間以上の教職員0%)

(2) 施設・設備の充実及び老朽化への対応について

- ・雨漏りや危険箇所への対応については、そのつど修理や工事を行い、安全を確保する。
- ・老朽化への対応については、県と学校の状況についてこれまでも情報共有を行ってきた。教室不足や老朽化が進んでいることについては、十分、県の理解を得ているところである。
⇒第二期長崎県特別支援教育推進計画 第二次実施計画において「特別支援学校における教室確保の検討」として本校が対象と明記されている。
- ・校舎の建て替えについては、莫大な予算を伴うため、今後も県と連絡調整を図っていく。

(3) 迅速かつ正確な情報提供・連絡について

- ・現在、保護者への連絡・情報提供は、電話、連絡帳、文書、メール、ホームページで行っている。今後も、どの手段が最も有効か考えながら、あるいは複数の手段を使いながら、情報を正確に伝えられるようにする。
- ・保護者の意見に、「早く知りたい」という声が多かったことから、なるべく早めに知らせることを心掛ける。
- ・情報は、できるだけ見やすいレイアウトや、分かりやすい表現(専門用語は避けるなど)を用い、「伝わりやすさ」「見やすさ」に留意する。
- ・連絡帳について、必ず毎日確認し、確認者がサインをするなど、学校が確認したことが保護者に伝わるようにする。
- ・メールによる連絡が分かりにくいという意見が学校評価以外の場面でも聞かれていることから、他の手段について、早急に検討していく。

(4) 職員の挨拶の徹底、適切な言動について

- ・保護者及び来校者へは、必ず、相手に伝わることを意識した挨拶をする(状況によって会釈はあり得る)。
- ・挨拶や声掛けは、不審者対応にもなるため、意識して行うようにする。
- ・自身の言動が適切か不適切かは自分では気付にくいいため、気付いたときお互いに声を掛け合えるような支持的風土を醸成していく(管理職を中心に)。
- ・人権教育に係る研修を一層推進する。

4 総括

- ・毎年、課題(意見)として挙がる項目(施設・設備、働き方改革、保護者への連絡)については、引き続き管理職会の重点的に取り組む内容として取り上げ、改善に向けて努力する。
- ・アンケートの結果について、全体としては、改善策を講じる必要がある項目はなかったが、部単位では、いくつか見られたことから、各部で改善に努める。
- ・今回、教職員、児童生徒及び保護者の評価が高かったことは、職員の日々の努力と実践の積み重ねが成果として表れたものと考え。今後も、さらに良い教育活動となるよう、今の取組を継続・発展するよう努める。